

令和6年第5回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

9月10日（火）午前10時～

- | | | | |
|---|------|----|-------|
| 1 | 金澤大輔 | 議員 | (60分) |
| 2 | 宮野和秀 | 議員 | (30分) |
| 3 | 湯瀬誠喜 | 議員 | (45分) |
| 4 | 丸岡孝文 | 議員 | (45分) |

9月11日（水）午前10時～

- | | | | |
|---|------|----|-------|
| 5 | 湯瀬弘充 | 議員 | (30分) |
| 6 | 成田哲男 | 議員 | (30分) |
| 7 | 黒澤一夫 | 議員 | (45分) |
| 8 | 笹本真司 | 議員 | (30分) |
| 9 | 栗山尚記 | 議員 | (60分) |

□質問時間割当表

10:00	11:00	11:10	11:40	13:00	13:45	13:55	14:40
9月10日 (火)	金澤大輔 (60分)	休憩 10分間	宮野和秀 (30分)	休 憩	湯瀬誠喜 (45分)	休憩 10分間	丸岡孝文 (45分)

10:00	10:30	11:00	11:10	11:55	13:00	13:30	13:40	14:40
9月11日 (水)	湯瀬弘充 (30分)	成田哲男 (30分)	休憩 10分間	黒澤一夫 (45分)	休 憩	笹本真司 (30分)	休憩 10分間	栗山尚記 (60分)

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

No.1					
順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 市長のパワハラ又はパワハラ的な言動等に関する実態調査報告書について				① 職員へのパワハラの実態調査の結果の中から幾つか事実確認として伺うが、まず自身の発言について、「補助金を受ける事業所は私のところに挨拶に来ないとダメだ」などと、私的な理由長期間にわたり起案文書を決裁しなかったというのは事実か。同じような話を業者側からも聞いているが、事実として認めるか伺う。 また、「俺の応援をしない議員の地域には事業予算をつけない」と激高した。一般質問検討会で「〇〇（業務名）はめんどくさい」と怒鳴られたともあるが、こちらの発言も認めるか伺う。 ① 調査結果の中に、あんとらあの件だと推測できる記述が何件もあり、それらをつなぎ合わせて読み解くと、事実を歪曲させてストーリーと資料を捏造した事実が浮かび上がる。当時、本会議中に、必死に何かメモを書き置いて、それをそのまま全員協議会の場で資料として読んでいたように思える。その後、我々から資料提出を求められ、嫌々つくられたという記述と伺えるものがある。全協の場での職員の市長に対する抵抗とも見える仕草と、今思えば合致する。 市長発言の根拠は確認できなかったと結論づけたあんとらあ問題は、当初から市長のただの思い込みか捏造ではないかと言わざるを得ないが見解を伺う。 ① 被害について、具体的な内容について 65 人が、業務の遂行や市政の推進等に与える影響については 79 人が、本調査全般に関する意見では 101 人もの職員が記載しており、回答者が分かってしまうことを躊躇しパワハラ事実を回答できない職員がいるとの記載もあった。内容も、我々が目にしているものから、思っていた以上に酷い言動まで、職員がこれまでどれほどの苦痛に耐えてきたかを思うと、同じく市政を担う議員として許せない思いが強い。パワハラに当たるかどうかの認定以前に、自身へのこれほどの批判と訴えの数々についてどう思っているのか。信頼の回復と言っているが、被害を受けた職員たちはもう無理だと言っている。その上で謝罪というのは全てを認めた上での謝罪なのか伺う。	
(1) 自身の発言について					
(2) 自身の思い込みについて					
(3) 職員への謝罪について					

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2	(4) 第三者委員会の設置について			① 議会初日の冒頭陳謝で、事実認定に向けた第三者委員会の設立を自ら宣言していたが、この調査は加害者が市長で被害対象が職員であり、加害側が事実関係を明らかにしたいと設立するというのは、謝罪をしておきながら自分の非を認めていない、自分の潔白を証明したいという意味と捉えられるが、謝罪行脚は何だったのか。真相を究明し組織として再発防止と話していたが、自身が対象者であるのに真相究明というのは意味が分からなく、組織として再発防止というのも、市長自身の問題という理解ができてないのではないか。これまでも市長の問題に関するいろいろな調査委員会を行ってきたが、調査結果で白黒がついても、最終的に本人が認めないという「ゴネ得」で終わっている。本人が認めないのに、第三者委員会を設立する意味があるのか。それで職員との関係構築、信頼回復ができると思っているのか伺う。	
	(5) 自身の進退について			① 調査結果の中で、「国・県に対して礼儀を欠く行動・言動を繰り返していることで、市に対する国費配分等で悪影響が及んでいる」や、「まともな協議が出来ないため市政全般が後退している。国・県からの協力が得にくい」など、職場内に留まらず悪影響が国・県にまで及んでしまっている。これはもう市長自身の問題ではなく、市政、鹿角市の存続の問題である。そして就任以来、悪いニュースとして全国のメディアで何度鹿角市が取り上げられたか。もう市民はうんざりしているし、職員も我々も本当に市政を危惧している。自分のことではなく、この先の鹿角、未来ある子供たちのために、潔く責任を取って辞任をしていただきたいが考えを伺う。	
	熊対策について			① 前回の答弁で、ドローンによる熊対策については、市所有の自前のドローンでの調査結果で効果を判断しドローンを使うことには否定的な答弁であったが、前回の質問の2日後、仙北市で熊対策としてドローンによる実証実験の報道記事が出た。それによると山中で、赤外線での生体探索でキツネの探索に成功し、熊であればもっと個体が大きいので見つけられるとの実験結果で、その効果に期待を寄せているという。本市の見解とは真逆のものだが、このことについて判断を下した市長としてどう考えるか。そして他市町村とのこの違いは何なのか。前も熊ドンでの実証実験を提案したがそれも却下。大館市では熊ドンと同様の狼ロボの実証実験をし、効果を検証している。本市はなぜ実証実験しないのか。そういった危機管理に対する指示がなぜ市長から出ないのか見解を伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3	高校魅力化について			② 音を出すドローンの効果は限定的であるとの市長答弁もあったが、実証実験をされての見解であるのか伺う。また、当面は現在所有しているドローンで、できる範囲内で調査等を行うこととするとの答弁だったが、市民の安全を守る対策を、本職であるプロを頼らず自前でできる範囲内で進めるとするのは、市民を守る市長として問題を軽んじているのではないか。できる範囲内ではなく最善を尽くすのが市長としての責務と思うが考えを伺う。	
4	道の駅かづの指定管理料について			① 前回の答弁で、本市が将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくためには、鹿角高校の活性化が必要不可欠で、市外からの入学者の増加につながる取り組みも必要と考えており、市としてできる施策や事業について検討していくとのことだったが、先日、鹿角高校を視察し意見交換をした際、下宿の受け入れ先の高齢化と少なさについて学校側から相談を受けた。 行政側の判断だけではなく、学校の要望を取り入れながら、本市や生徒にとってベストな施策や事業を検討してもらうため、まずは意見交換の機会をつくっていただきたい。そして、通年意見交換ができる体制として、高校でのコミュニティ・スクールの設置を提案したいが考えを伺う。	
				① 前回の答弁で、「本来、行政が管理すべき公の施設を指定管理させる場合において、必要な管理料については支出するべきであると考えている」とのことだったが、結果的に予算をつけておらず、今回の補正予算にも計上されていない。指定管理のうち、トイレ棟など利益を生まない公的な部分の光熱費や除雪費が負担になっていると言っているのに対し、予算をつけない。必要な部分は市が支出するべきとの考えでありながら予算をつけないというのは矛盾している。大湯には予算措置しているのに、なぜ、頑なにあんたらあには措置しないのか。これで公正で透明と言えるのか考えを伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5 稼げる観光振興について					
(1) 稼げる観光の道の駅について				① 地元資本の小売店がない本市にとって、道の駅は稼ぎ頭と考える。人気のある道の駅は、集客が見込める外部店舗をテナントに入れて集客とテナント料で稼いでいたり、道の駅敷地内に外部店舗を誘致して地代で稼ぐ形が広まってきている。テナント型でいえば、二ツ井、中仙、十文字、東由利、象潟など。敷地内型だと美郷と象潟のモンベルなどが挙げられる。 テナントで稼ぐメリットとして、契約期間や人気によって入れ替えができ、更新と発信の情報提供を常にすることで、来訪客の興味を掴むことにある。他の道の駅では稼ぐ工夫としてこのような取り組みをしているのだが、本市では見当たらない。これまでのあんとらあとのやり取りの中で、仕入れや体制や人事にもの言う大株主、稼げる観光振興を掲げる市長として、この3年間でこういった戦略的提案はされてきたのか伺う。	
(2) 観光発見八郎太郎三湖伝説事業について				① 目的と手段に「広域間で新たなつながりを生み出す」と「ゆかりのある自治体、関連団体との連携を図る」とあるが、そのつながりと連携を使って、本市も相手側のイベントに呼ばれているのか、またはPRの機会をもらえているのか。ただ機運を上げるためにお金をかけて相手を呼んでいるのであれば、何で稼ぐつもりなのか見解を伺う。	
(3) きりたんぽ発祥の地かづのPR事業について				① 稼げる観光の観点から、大館市のきりたんぽまつりと本市の発祥まつりを比較して考えたことはあるのか。片や樹海ドームという大きな箱を使って、食材やつくり方を統一させて「本場大館のきりたんぽ」として大々的にイベントをつくり発信して集客を上げているが、それに比べて本市はどうか。比較や勝ち負けだけの話ではなく、どうやって稼ごうとしているのか、何を売ろうとしているのかが分からない。刷新かテコ入れが必要と思うが、市長はどう考えているのか。就任して総合計画を全く変更せず、市長采配から従来通りのままなのだが、稼げる観光ときりたんぽ発祥の地かづのPR事業は、このままで充分だと考えているのか、市長の見解を伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.5

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(4) 種苗交換会について				① 11 月には県内随一の農業の祭典、種苗交換会があるが、稼ぐ観光に結びつける方策は考えられているのか。種苗交換会期間中、J R 花輪線を使つての八幡平市や大館市など近隣からの誘客施策は考えられているのか。会場を結ぶシャトルバスの乗り場を花輪駅にも設置すれば、市内の飲食店と結びつけられる。また、観光ガイドと結びつけることによって、市内観光の回遊につながり、花輪線利用促進と市内経済への誘導にもつなげられると考えるが、どのように考えているのか伺う。	
(5) イベント出店補助について				① 稼げる観光振興としてイベント事業もあるが、本市のイベントの傾向として、出店者数と品目の少なさが盛り上がりには欠ける要因だと思う。イベントは出店者の数も重要であり、市内に稼ぎをもたらすのであれば、飲食店をはじめ商工関係を巻き込む必要があると考える。しかし、どこの店も人出と時間と備品の不足で関われる余裕がない。 他自治体では、保健所への申請手続をまとめて代行したり、臨時出店の備品を無料で貸したり、ボランティア募集と結びつけてくれるなどの補助事業があるが、本市にはない。これがあるだけでイベントの賑わいも稼ぐ力も格段に違ってくると思う。今後、来ると思われる2万人規模の野外フェスに、市内の飲食店が店と会場出店の2店営業で臨める体制を構築して稼ぐ体制を整えておかねば、イベントはただの渋滞と混雑を生むだけのものになり、稼ぐ機会を逃し市外の業者にさらわれることになる。稼ぐ観光を本気で考えているのであれば、これらを行うことは必須だと思うが考えを伺う。	
(6) 旅先納税について				① ふるさと納税の制度を利用し、旅行・出張で訪れた自治体に寄附できる旅先納税という仕組みがある。東北では男鹿市、仙北市、大館市、花巻市、盛岡市の5市が取り入れている。ふるさと納税の利点は遠くの人からも選んでもらえるという点だが、ホルモンや肉などは冷凍での発送になる。だが旅先納税の場合は、お店で新鮮なものを食べることができたり、生産者と直接のやり取りが生まれ、顔の見える関係性の構築など、ふるさと納税以上の効果が見込まれると考える。何より、サイトの中で数ある自治体と商品に埋もれる心配がなく、訪れられた方にピンポイントで刺さるPR効果があり、まさしく稼ぐ観光の手法と思うのだが、取り組む考えはないか伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.6

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
6	(7) 十八駅伝について			① スポーツ振興と交流にまたがっているがどちらにしても、エントリーチームが年々減少し、参加チーム集めに毎年苦労されているが、何が要因だと考えているのか。要因の一つに、8月という猛暑の中での大会というのが選手にとっては多大なリスクだと聞いている。当初の開催理念は分かるが、近年の夏場は猛暑を超えて酷暑に近く、酷暑の中の大会運営はオリンピックでも回避している。6月最終週に開催されている男鹿駅伝は96チームも参加し、強豪大学も多数エントリーしていることから、本市が考える取り組みの成功事例と言える。それを踏まえて、そろそろ開催時期と大会内容を見直す時期にきているのではないかと。そして、この事業にも稼ぐ仕組みが必要ではないかと思うが考えを伺う。	
	6 農業政策について			① 前回、田んぼの関係人口を増やす政策と市主導の農業政策の必要性について質問したが、市長の答弁は国の方向性と同じく先見性がないと感じた。今の米不足の現象は、戦争による小麦粉の高騰が要因とも捉えられるが、インバウンド消費での寿司、おにぎりなどの米人気、人口が増え続けている途上国の食料不足などを見ると、稲作は今重要な一大産業になると考える。それを見越して、輸出用米として、これまでの米づくりの常識を覆した手間と費用が極力かからない、菌根菌を使った乾田直播栽培のマイコス米の生産に取り組んでいる生産法人が出てきている。マイコス米の生産方法のメリットとして、地球温暖化の要因とされるメタンガスの削減と、酷暑による水不足への耐性などが挙げられる。本市が取り組むゼロカーボンとも合致するのではないかと。そして、農業所得の増加と農業関係人口への結びつき、何より国を巻き込んで動き出してまだ間もない事業で、輸出産業という総量が必要で多くの生産者を募っている事業であることから、今なら参入しやすいものかと考えるが、調査してみてもどうか。考えを伺う。	
	7 首長の役割、資質について			① 市長が考える首長の役割と資質についてどう考え、今それができていると思っているのか伺う。 ② 市長が就任してからあらゆる意味で全国発信されているのだが、それについてどう思っているか。本市にとってはマイナスイメージでしかないと感じているが、自身としてどう捉えているか考えを伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	市長の市政運営について			① 「関市長からのパワハラ又はパワハラ的な言動等に関する実態調査報告書」を見て、市長はどのように思われたのか伺う。また、就任以来3年経過し、その間トラブル続きであり、一番大切な市職員との信頼関係が失われていると思われる。一体市長は本市をどのようにしたいのか方向性が全く見えてこない。今後、職員との信頼関係を取り戻し、低迷している鹿角経済を盛り上げていけるのか伺う。	
2	森林整備について			① 本市では、ここ5年ほど前から伐採後に造林されていない山が目立っている。伐採する際は個人所有の山でも市に届け出が必要とされているが、現在でもそれは守られていないと思われる。このままの状態では50年後民有林の製品木がゼロになるおそれがあり、本市が目指しているカーボンニュートラルの達成にも関わる問題でもある。伐採後は必ず造林（植林）するよう指導することを強く要望するが、市の基本的な考え方を伺う。	
3	上沼風力発電について			① 大湯支所に風力発電事業者2者より環境配慮書が提出されているが、まだ計画段階とはいえ、今後どのような方向で進んでいくのか、その過程を伺う。	
4	鳥獣被害について			① 本市の有害鳥獣の種類はどれくらいか。それぞれの被害と駆除数、今後の対策について伺う。また、駆除した後の処理施設は現在どのようなになっているのか伺う。	
5	小中学生通学時の熊対策について			① どのような対策を行っているのか伺う。	
6	大湯地区における保育園の存続について			① 大湯保育園が今年度をもって閉園となるが、大湯地区には今後も保育園が必要であると考え。そこで、現在、大湯児童クラブ（旧わかば保育園）が開設されているところで、保育所を併設することはできないか伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	市長の公約である 5 つのビジョン達成について			① 3 年前の市長選挙において、公約として掲げた 5 つのビジョンの達成度について、自分ではどのように捉えているのか伺う。また、3 年間ではなかなか自分が納得できるようなところまでいかないことも多いと思われ、中には全く達成できていないこともあると思うが、市長の考えを伺う。	
2	パワハラ調査の結果を受けての思いと来年の進退について			① パワハラ調査の結果を見ると、パワハラ的な言動を「受けたことがある」または「目撃したことがある」と回答した職員の割合は 29.5%、管理監督職に限れば 51.6%という数字が出ている。想像以上の数字を目にして驚くとともに、裏切られた思いになった市民、有権者も多いと思う。市長就任直後から始まっていたのは驚きしかない。市長は謝罪されたが、昨今の首長のパワハラに関する世論を見ると、謝罪だけでは済まされないと感じるが、市長の考えを伺う。 ② 調査結果を見ると、職員との関係修復はかなり厳しいと感じるが、関係修復できると考えているのか。また、関係修復ができなければ、行政遂行に支障が出ると思うが、市長の考えを伺う。 ③ 調査結果と職員との関係等いろいろ鑑みて、来年の進退について、今現在の市長の考えを伺う。	
3	自然災害への対処について			① 台風 10 号では、全国至るところで甚大な被害が発生した。本市においても 3 年前の大雨による災害では大きな被害があった。対策として普段からの点検整備が大切と思うが、河川の環境整備や土砂災害防止対策等、大雨による災害についての対策は進められているか伺う。 ② J R 東日本では、3 年前と同じような災害があった場合、今後は復旧費用の負担困難を理由に路線廃止の方向へ進むことが懸念される。市として、花輪線沿線の定期的な環境整備、河川の氾濫や土砂崩れを未然に防ぐ対策が必要と考えるが、市の考えを伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
4	鳥獣被害対策について			① 先月、捕獲されたイノシシ2頭の豚熱感染が確認されたが、豚熱感染への対策はあるのか伺う。 また、年々イノシシの目撃情報、農作物への被害が増えていると思うが、熊やイノシシの生息数についてどのように捉えているのか、今年の現在までの捕獲数はどのくらいなのか伺う。併せて、イノシシへの対策はどのようなことを行っているのか伺う。 ② 熊の解体処理施設として、旧山根保育園を活用するとして整備が進められているようだが、実際の施設ではどのようなことが行われているのか、整備状況や活用状況などの詳細を伺う。 また、上水道の工事は行われたようだが、今後建物及び下水道も含め、どの程度の施設整備を行う予定なのか伺う。	
5	林道整備について			① 大湯黒森山の頂上には携帯電話（ドコモ・KDDI）のアンテナ2基が設置されており、点検や周辺の整備のため頂上に行く必要があるが、林道の整備が行われていないため、大変困難な状況にある。今年はどうにか行くことができたようだが、今のままだと来年は無理だと思われる。 そのほかにも、市内には牛の放牧や畑・山林に行くための、普段市民が利用する林道が数多くあり、必要であれば年に1回程度でも定期的な見回りや整備をしなければならないと思うが、市の考えを伺う。	
6	十和田高校跡地について			① 6月定例会の一般質問で十和田高校跡地の利活用についての質問をした際に、市の意向については6月中に県に回答するとの答弁があったが、どのように回答したのか。 また、市民アンケートの予定があるかも含め、今後の対応について伺う。	

令和 6 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 既存のスポーツ施設の現状とこれからの在り方について (1) 市民プールについて				(既存のスポーツ施設による鹿角市への誘客策について市民からの意見を参考に市の考えを伺う) ① 昨年度の市民プールの利用者数については延べ 1 万 400 人ほどで、今年もほぼ同数の利用があったと思われるが、ほとんどの利用者はスライダーや流水プール目的であり、近隣市町村からの利用者も相当数あるようだが、市外利用者数を伺う、また、流水発生ポンプ、スライダーへの汲み上げポンプに不具合が発生した場合、プールが閉鎖にならないよう予備設備はあるのか、メンテナンスはどのようにしているのか伺う。 ② 小規模ではあるが近隣の自治体にはない設備を有するプール目当てで市民以外利用が多くなっていることに、市民からは同一料金設定に対し疑問の声が上がっている。設備も古くなっていることから見込まれる保守改修・維持費用を考えると、市民以外利用には料金を別に定めるべきとの意見があることについて、施設の存続と合わせ考えを伺う。 また、近くの西街区公園の一部を、周辺住民の理解を得た上でキャンプができるように整備し、市街地滞在型の集客を図ることができないか伺う。	
(2) 水晶山スキー場について				① 鹿角市は「スキーのまち」を標榜していながら、市民のスキー離れが進んでいる。水晶山スキー場も同様に市内から近く気軽に利用できるにもかかわらず市民の利用減に歯止めがかからない反面、ナイター設備のあるファミリーゲレンデが人気で、土日やナイター実施時には市外利用者が増え花輪の夜景を楽しみながら滑走している。また、市内外問わず仕事帰りの利用者が多くある。照明が点灯すると市街地や高速道路からも見え、ナイタースキーやスノーボードなどを体験してみたい若い世代が来場するきっかけとなっている。その照明設備は水銀灯であり、電気の使用量も多いばかりか何らかの不具合で消灯すると再点灯に時間を要する欠点は来場者の安全にも関わるため、早期に LED 化の要望がある。 数年前より、大館北秋の 3 校約 200 名の児童がスキー授業に利用している。しかし、スキー場の運営は厳しい状況が続いている。これには利用客の減少、燃料費の高騰と指定管理料の少なさが大きく影響していると考ええる。水晶山スキーハウスでは暖房費の節約のため食堂は昔ながらの薪ストーブに社員が山から木を切り出し暖房としている。それ以外の所は簡単な家庭用石油暖房のため寒く、勤めている方は防寒着を常に着用して働いているのが現状であり、施設規模に大きな違いがあるにしろ、花輪スキー場の指定管理料 1 億 6,000 万円に対し水晶山は 150 万円と 100 分の 1 にもなっておらず、市として何らかの対策や支援等を行うべきではないか考えを伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(3) 鹿角市総合運動公園等について				② 水晶山スキー場の強みはやはりナイター設備を有していることと、昨シーズンは暖冬で他のスキー場が営業できずにいる中、水晶山だけが営業を続けられたのは立地地形の恩恵もあるが、指定管理者による不断のゲレンデ整備によるものが大きく、営業中を知った市外のスキー愛好家の来場やわずかではあったが学童へのスキー授業も行われた。全体的な来場者減少に歯止めをかけるには「スキーのまち」を標榜している市が能動的に施策を展開するべきと考える。教育委員会においては、地元市民の、特に小中高生のスキー離れの大きな原因と思われる保護者の「用具準備にお金がかかる」との意識に対しての対策をしなければ、教育長が継続を明言しているスキー授業継続もおぼつかなくなると思う。隣の大館ではスキーシーズンを通じた用品のレンタルを斡旋し家計への負担軽減が図られたことに加え、冬休みや休日に気軽にスキーを楽しむ回数も増えているようであると聞くが、当市においての対策について伺う。また、ナイタースキーと宿泊、温泉利用、食事などセットにした誘客などに取り組む考えが無いか伺う。 ① 温泉や宿泊施設もあるが夏場はスポーツ合宿での利用が多く、冬はスキー大会により一般の利用が制限されることばかりで、市民から見ると市民のための施設という印象が薄いのに加え、毎年のように施設の改修や補修を繰り返して市民以外のために高額の税金が使われているとの声があることについてどう思われているか伺う。また、年明けに冬季国スポが開かれるがそれ以降大きな大会の開催がなく、それでも施設の維持点検は必要であり、スキー場施設のほかに陸上競技場やアリーナを含め今後の施設維持等にかかる費用についての考えを伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 恥ずかしくない冬季国スポ開催に向けて (1) アルペン女子選手が使用できるスタートエリア付近への施設の設置について				② 市民からは、小学校の校外学習施設としての整備、オートキャンプができるよう既存の駐車場を整備、雪がなくてもそり遊びができるようゲレンデの芝生化などいろいろな意見が聞かれる中、花輪スキー場からの眺望の素晴らしさを市民を含め多くの方に見てもらえるよう、第2リフト終点エリアへの展望休憩所とトイレ設置について再度要望してくれないかとの声がある。同様の質問を令和3年第4回定例会で行っており、この質問に当たり先回の市の答弁内容確認が必要とのことで答弁に至る検討内容根拠の開示要求を求めたが「不存在」との回答であった。指定管理者である東京美装の所長とはこれまで二度面談し「冬季以外のスキー場の活用」について意見交換をしている。その際この話題についても触れたが、リフト終点エリアへの休憩所やトイレの設置については、冬季のゲレンデ整備を圧雪車が行う範囲は限定されており、それ以外の場所もかなりの広さがあるため問題はないとのことであり、実際に作業を取り仕切る担当者からも同様の考えが示されたとのことであった。 教育委員会からの本件に関する問い合わせは受けたことはないとのことだったが、市民へ市の考えを伝えるため、再度同様の質問とはなるが、今回は具体的にリフト終点エリアでの圧雪車の作業範囲と圧雪車用のアンカー設置位置の関係、圧雪車の大きさや能力が作業上終点エリアではどれくらいのスペースを必要とするのかなどを含め、前回「終点エリアへの設置が難しい」と判断した具体的作業範囲、作業方法を示しての考えを伺う。また、現地確認、作業者への聞き取り調査はされての回答であったのか伺う。 ① アルペン競技の場合、スタートへの集合からスタートまでの時間、また競技が開始されても天候やコース条件の悪化により長時間にわたり待機されることが頻繁に起きる。その場合女子選手は寒風にさらされしばしば生理現象が起きるが我慢を強いられている。中には紙おむつを装着し滑走する選手もあると聞いている。悪天候などでスタート時間が定まらないとき、一時的に退避できる施設や特にトイレの設置は考えはないのか伺う。	

令和 6 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3	(2) 競技役員不足の解消について		① 競技役員不足が慢性化となっていることは認識されていると思うが、対応はどのようにされているか伺う。また、役員への日当の額を伺う。		
			② 大会終了後に源泉徴収票を送付しているが、「種別」は何となるのか伺う。		
	(3) アルペン競技の電計用ケーブルの準備及び撤収作業について		① アルペン競技スタートとフィニッシュ間の電計通信ラインについては、経費の関係で露出と伺っているが、敷設・撤収は専門業者に外注できないのか伺う。		
4	鹿角東部山地における風力発電事業について				
	(1) 風力発電の必要性について		① 再生可能エネルギー300%以上と言われている当市において、風力発電事業者を改めて受け入れるメリットについて伺う。		
	(2) 市街地からの景観について		① 多くの市民が親しみをもって眺めている市街地からの青垣の山並みの景観が損なわれないか伺う。		
4	御蔵の下から花輪小学校への法定外公共物（赤道）利用の通学路確保について		① 令和 5 年第 4 回と第 6 回の定例会において一般質問で取り上げた御蔵の下から桜山テニスコート脇を通り花輪小学校へ通じる法定外公共物（赤道）について、事前に市の担当者に現地確認していただき、今年 4 月 21 日に荒屋敷自治会の皆様より通行できる状態にいただいた。作業後、自治会からは出口（館坂）部分の安全な通学への支障が考えられる物、桜山公園入口の景観を損ねるものが残されているため行政で廃棄などしていただきたいとの依頼があったと思う。自身も直接市長に同様の要望をし、市長からは「担当へ話をしておく」との返事をいただいた。子供たちの通学の安全、特に冬場の安全な通学路確保のため自発的に作業をされたことへの市の所感と、ここまでしていただいたことへの今後の対応について伺う。また、学校を通じて通学に利用できることの周知をしていただけないか併せて伺う。		

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 市長によるパワハラ又はパワハラ 的言動等について (1) 発言内容や職員の保護につい て			① 調査報告を受け、市長自身はこの結果についてどのように受け止めているか伺う。 ② アンケートに回答をした職員の安全・保護はしっかりとできているか。また、誰がどのような回答をしたかなど、ネットワークを通じた詮索は不可能になっているか伺う。 ③ 脅しとも取れる言動に対して、「話には前後がある」「切り取られている」と発言していたが、どのような前後があるのか。また、どのような前後があったとしても脅し的な発言はあってはならないと思うが、市長の考えを伺う。 ④ ハラスメント研修を受ける予定としているが、いつになるのか。また、具体的にどのような効果があるのか、さらに、その効果をどのように証明していくのか伺う。 ⑤ 「改革していく必要がある」と発言しているが、具体的にどのような改革なのか伺う。 ⑥ 職員のモチベーションが下がっていると調査結果にもあったが、今後どのような対応をして改善するのか考えを伺う。 ⑦ 特別職に対応したパワハラ防止条例がなく、その制定が急がれると思うが、いつ頃の制定を予定しているのか考えを伺う。		
2 少子化対策について (1) 子育て環境の充実について (2) 出生数について			① 本市に住む子育て世代のニーズをどの程度把握できているか。また、アンケート調査などはどれくらいの間隔で実施しているのか伺う。 ① 令和4年度は88人、令和5年度は95人と連続で100人を切っているが、今年度の出生数の見込みについて伺う。また、今後の出生数を増やすための対策をどう考えているか併せて伺う。		

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	十和田湖周辺の消防救急体制について			① 十和田地域広域事務組合と消防応援協定を締結することで一定の合意となった。2020 年度から 5 年間、鹿角広域行政組合で対応してきたが、その間の救急事案における問題はどのようなものがあったか伺う。 ② 十和田湖出張所は今後どうするのか。また、地元への説明などを含め、年内実施に向けての予定を伺う。	
2	上沼放牧地周辺の風力発電事業について			① 上沼周辺では植樹などの整備事業が行われているが、発電事業とのバランスはどのように調整されるものか伺う。 ② 2 者が予定している風力発電事業について、市として事業者に対し、どのような要望を考えているか伺う。	
3	市長のパワハラ問題について			① 市長は今定例会の冒頭、調査結果を真摯に受け止め反省し、職員にお詫びしたいと発言したが、定例会前の会見では「発言内容と職員の受け止めた内容に違いがある」と話していた。今でもそのような考えか伺う。 ② 定例会後に各課を回り謝罪したと聞いたが、その時の職員の反応をどのように感じたか伺う。 ③ パワハラに関する事実が確認されたら責任を取ると言われたが、どのような形を考えているか伺う。	
4	旧十和田高校の校舎等の取得について			① 旧十和田高校の校舎や施設に対する市の検討内容を県に伝えたと思うが、その内容と結果について伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	6	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5 市内の中核病院以外の医院やクリニックの今後の見通しについて				① 医療機関開設資金支援事業を利用して2カ所の診療所が開院し、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、内科の診療科目が開設された。しかし、二桁ほどある歯科医院が、高齢化などにより今後減っていく見込みといわれている。こういう状況を市はどのように見ているか伺う。 ② 学校医を引き受けている医師も通常業務との兼ね合いもあり負担がかかっているとも聞く。学校医の委託などに支障はないものか伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	黒澤 一夫	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	第 147 回秋田県種苗交換会の開催について			① 事務局体制を整えて準備に当たっていると思うが、関係団体との連携等、現況について伺う。 ② 県、J A全農あきた中央会等、役割分担について、鹿角市の関わりはどのようになっているのか。また、来場者に対しての「鹿角」の売り込みはどのようなことを考えているのか伺う。 ③ 全県から農産物の出品がたくさんあると思うが、鹿角地内からも多くの農産物の出品を望むものである。その取り組みについて伺う。 ④ 市内の交通安全対策はどのように計画をしているか。特に東山地域の道路の渋滞が懸念されるが、その対応について伺う。	
2	地域医療体制のさらなる充実への取り組みについて			① 県の医療体制の強化策と鹿角市の考え方を伺う。	
3	鹿角特産品の生産振興への取り組みについて			① 特産品の生産販売を高めることが「鹿角の発展」にもつながるものと考えことから、 (ア) 北限の桃 (イ) 夏秋野菜 (ウ) 鹿角産あきたこまちの名声高揚 このそれぞれの生産拡大と目標はどのようになっているのか伺う。 ② 秋田県で進めるエダマメの生産拡大について、本市では面積、販売額をどのくらいと定めて取り組みを展開しているものか伺う。 ③ 来年度の生産作付目標を定め、市の特産品として育てることについて考えを伺う。	

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	黒澤 一夫	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4	企業誘致と働く場の確保、若者の定住への取り組みについて（人口減少対策について）		① 今年度の取り組み状況について伺う。 ② 企業誘致のために訪問した事業者等の件数及び誘致交渉の状況について伺う。 ③ 市内の多くの高校生や若者は卒業と同時に市外へ移り住んでいる。これを市内へ留める取り組みは最重要であると考えているが、どのような対策を講じているのか伺う。 ④ 現在、市内の会社、企業の総体的給与は、全県・全国と比較してどのくらいの金額、水準となっているのか伺う。		
5	工業団地、工場団地の取得について		① 企業誘致を一層進めるために、市有の工業団地を常時所有していることが肝要であると考えているが、市の取り組み、考えを伺う。		
6	選挙における投票率向上への取り組みについて		① これまでの様々な選挙で、投票率の低下が続いていることが懸念されている。投票率向上への対応について伺う。 ② 市民の選挙への関心を高めるため、恒常的にどのような取り組みを行っているか伺う。 ③ 選挙時、投票箱と有権者との距離と移動時間が大きくなった。投票所、投票箱が少なくなったことが投票率低下の原因と思われる。このことについて、対策を講ずるべきと考えるがいかがか。		

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	笹本 真司	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	上水道政策の持続可能性について (鹿角市水道ビジョンR3～R12 年度より)			① 上水道事業は、数十年単位のスケールで事業を考える必要がある一方で、需要予測に最も影響する将来の推計人口推移は比較的予測精度が高いため、将来的な課題は明確である。また、課題の根本解決のための対応は、影響が大きく、その場しのぎや、先延ばしされやすい可能性があり、ここで、正面から向き合う必要があると考えることから、以下について伺う。 (ア) 本市の上水道の有収率は令和元年で70%を切っており、全国的に見ても低い。この際、送水管・配水管それぞれの有収率の数値を伺う。 (イ) 現状、鹿角市の水道管更新率は0.2%と非常に低い。一般的に配管耐用年数は40年と言われるが、0.2%では理論上500年かかり、いくら優先度の高いところから更新したとしても、いずれ水道管破裂の頻発を招き、それがさらなる財政上、業務上の重荷となり悪循環に陥るのではないかと考えるが見解を伺う。 (ウ) 市の水道事業ビジョンでは2060年ごろまでの収支見込みが提示されているが、先に述べたような管路破裂等の事故リスク増大、または、そうならないようにする予防経費を十分加味された予測であるのか伺う。 (エ) 企業債残高の見込みは現状の約27億円から、2063年には95億円ほどと、3倍以上の大幅増加予想となっており、市民1人当たりで見れば、現在の約10倍の負債を抱えることになり、これは健全な経営とは言えないと考えるが見解を伺う。この際、市の考える2063年における健全な負債額の目安についても併せて伺う。 (オ) これまでは、簡易水道の統合等を通じて、人口減少の中でも浄水施設の利用率を上げることで効率性を確保してきたと理解しているが、そのメリットよりも管設備老朽化に対応するための負担増大のデメリットの方が大きいのではないかと考える。料金値上げや一般財源からの充当、起業債の発行への依存も限界があり、将来の縮小する財政を圧迫する要因となれば、市が政策に新規投資する資金が圧迫され、悪循環により、ますます人口流出を加速させる事態にもなりかねない。鹿角のような広い市域をもち、家が分散する自治体では、この際、積極的な管路長削減に舵を切るべきと考えるが、見解を伺う。	

令和 6 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	笹本 真司	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
2	鹿角市の義務教育について (1) 第 2 次鹿角市学校教育振興基本計画の目標 1「確かな学力と高い志を育てる教育の充実」について		① 施策の基本方向 1 における、施策の柱①「なぜ学ぶのかを明確にした、主体的・対話的で深い学びの推進」の中で、教師には、「なぜ学ぶのか?」「汝何のためにここに在るのか」といった学びの動機づけを行うナビゲーターとしての働きを求めている。 そこでまず、教育長はどういう心持ちで職務に当たっているのか伺う。 また、教師が一斉指導型の教育から脱却し、ナビゲーターとしての働きに注力している状態が実現したならば、学校の授業スタイルはどのようなイメージになるか、教師の多忙が指摘される中、何をどのように変えていくのか、実現のためのビジョンを伺う。		
3	鹿角市の郷土資料等のデジタルアーカイブ化について		① A I 技術の発達により、書籍の管理や内容分析等を人が行う必要がなくなりつつある。一方で、こうした技術を活用するには、資料のデジタル化が前提となる。 A I の積極活用はもう少し先の話になるかもしれないが、デジタル化することで、ハード版資料の保管数削減によるスペース削減や維持管理マンパワーの効率化、火災等による消失リスク回避、インターネットを通じた資料の利活用向上等は、早期に効果が期待できる。 人口減少が今後も進む中、鹿角市が最も大切にすべき書籍は自分たちの郷土に関する資料であり、これらのデジタルアーカイブ化を積極的に進め、将来的な技術活用や効率的な管理、知的財産の有効利用のための基盤をつくり始めるべきと考えるが見解を伺う。		
4	全方位的なパワハラ等に関する実態調査の実施について		① 市長からのパワハラの言動に関する事項については引き続き対応するとして、今回の調査目的が「組織としてパワーハラスメント防止に取り組む」ことであれば、ほかにも市役所組織内、また、先のアンケートでも指摘のあった市議会議員によるパワハラの言動に関しても調査を実施し、全方位的な実態の把握とハラスメント防止に取り組むことが、効果的な対応をする上で大切ではないかと考えるが、見解を伺う。		
5	鹿角高校の魅力化について		① 鹿角高校の生徒数は現在 495 名だが、秋田県の予想では、10 年後には地域の中学卒業生は約 4 割減少し、このままいくと単純計算で生徒数は 300 名程度になると予想される。その後も、減少は止まらなると考えられる。例えばにかほ市の仁賀保高校など、いくつかの自治体で既に取り組まれているような、高校や市内関係者・団体により構成される協議会を設置し、部活生の下宿体制の確保以外にも高校魅力化のため、様々な課題やビジョンを話し合い、共有し、実行に移す体制を構築する考えはないか。		

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60 分	No.1
質 問 事 項				質 問 要 旨		
1 ふるさと納税について (1) 現状の問題点について (2) 今後の取り組みについて (3) 鹿角出身者に対する取り組みについて				① 3月議会での一般質問への答弁では、問題点は5割ルールの厳格化への対応による寄附設定額の引き上げが寄附件数の減少につながったことと、気候の影響による農産物の収穫量減少により返礼品の確保が十分できなかったことを挙げられたが、その後のふるさと納税運営においての問題点について伺う。		
				① 「ふるさと納税」は地方自治体にとって、取り組み方次第で短期間に飛躍的に歳入を伸ばせる可能性を持った画期的なシステムだと思う。自治体間で激しい競争が続く中、返礼品の内容以外にも人材採用や現地での自販機による即日納付等々、様々な創意工夫により大きな成果を上げている事例もある。企業版ふるさと納税（人材派遣型）をはじめ、本市に不足しているシステムも残されている。自主財源に乏しい本市としては、あらゆる手段を全力で駆使し、好機を逃がさない取り組みが必須と思うが、今後について伺う。		
				① ふるさと納税の理念にもあるように、生まれ故郷に貢献していただくきっかけとなる仕掛けやメニューを鹿角出身者やゆかりのある方々に発信し、より多くの方々に鹿角の環境を育む支援をしていただくことも重要と思うが、現状と今後の計画について伺う。		
2 医療環境について (1) 産科医をはじめとした医師確保について (2) 専門医が不足している現状下での取り組みについて				① これまでも何度も取り上げている医師確保問題だが、県を中心とした計画では、大館を中心とした医師の配置や確保が進められているが、鹿角の医療環境を維持するためには、県や医大による計画に頼らない鹿角独自の医師確保へ向けての取り組みが必要と考える。現状と問題点について伺う。 ① 北秋田市民病院でも 2025 年度から分娩の取り扱いが中止されることになり、分娩対応に限らず県北地域での医療環境がさらに悪い方向へ進んで行く。市民の生活と命を守るためには、これまで行ってきた妊産婦への支援に加えて市民の負担や不安を軽くするさらなる取り組みが必要と考える。専門医が大館に集約されていく現状下での距離的不安を解消するためのドクターカーの導入やオンライン診療など、県に対して積極的に提案し具現化していく必要があると強く思うが今後の取り組みについて伺う。		

令和6年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3	2030 ゼロ・カーボンシティについて (1) 2030 ゼロカーボン推進に関する事業の進捗状況について (2) 市民が利益を実感できる計画について			① 昨年度、環境省の「令和5年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」に採択された事業の進捗状況と2030 ゼロカーボン達成見込みや問題点・対策について伺う。 ② 異常気象をはじめとする地球温暖化への対応は世界的な流れとなっていることは多くの方の知るところだが、2030年までのゼロカーボンを市民と一体となって達成するためには、結果的に安価で電気が購入できたり、優良な企業が鹿角を評価し進出する等、さらにはカーボンクレジットの導入等により市民が利益を実感できる成果が必要だと考える。それらを達成するためには、今の段階からの下地づくりや計画が必要と思うが、現状や構想について伺う。	
4	祭典をはじめとする市内イベントへの支援について (1) 人口減少、物価高騰下での支援について (2) レンタルAEDの導入について			① 人口減少・物価高騰の中、市内で行われている祭典やイベントの運営は、人員不足や必要経費の割増しにより存続の危機を迎えている事業も出てきている。伝統芸能継承や文化活動の要素を基本としながらの運営では、独自に活動を維持することには限界がある。特に物価高騰が急激に進んでいる今、企業などへの支援と同様の、これまでより手厚い支援が必要と思うが、考えを伺う。 また、人員不足に対する行政による支援も重要と捉えるが、併せて考えを伺う。 ② コロナ禍でのイベント開催では感染予防対策として主催者側に消毒液や体温計などの準備を求められ、行政からの支援も受けながら対応した。昨今のイベント運営には、地球温暖化の影響による熱中症への対策が求められている。できる限りの準備はしているもののAED等の高価な備品を備えるには、経費の面で無理がある。そこで、市内のイベント時に無料で貸し出しができるAEDを市が常備すれば、幅広い分野での応用も含め、市民の命を守る手助けになると思うが、導入できないか伺う。	